

資質・能力の育成に向けた授業改善

～全国学力・学習状況調査の分析から～

学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）は小学校では本年度から全面実施であり、中学校では令和 3 年度から全面実施となります。今回の改訂では、育成を目指す資質・能力がすべての教科等で三つの柱に再整理されました。総則には「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等を育むとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。」とされています。

静岡県では学習指導要領の改訂にあわせて、平成 31 年 3 月に教師用指導資料「自分ごと（自分の事）として学ぶ子供」を配信しました。各学校では教師用指導資料にあるように、子供が主体となる学習が進められていると思います。この資料では、子供が自分の事として学び、未来の担い手として必要な資質・能力の育成が図られるような、学び手の視点からの授業づくりを示しています。また、教師が

○育成を目指す資質・能力を明確にして授業を構想する。

○子供の思考過程を生かして授業を展開する。

○資質・能力の伸長について子供と共有する。

を心掛けることが大切であるとしています。

今後も、教師用指導資料を校内研修や授業づくり等で活用することで、授業改善を推進し、子供一人一人の学びを一層充実させましょう。

さて、本県では毎年、全国学力・学習状況調査の調査問題や調査結果等を分析することを通して、授業改善について発信しています。本年度はこれまでの調査問題と結果及び本年度の調査問題を分析し、本資料を作成することとしました。

これまでの調査問題や結果の分析から、本県の子供の傾向として「知識及び技能」を問う問題に比べて、「思考力，判断力，表現力等」を問う問題に課題が見られました。本資料の第 1 部では、この事を伝えるとともに、「思考力，判断力，表現力等」を育成する授業づくりの充実のため、方向性の一つを示しています。第 2 部では具体的な授業改善の例を、本年度の調査問題を活用して、教師用指導資料とも関連付けながら説明しています。

本資料を参考にして、各教科等において子供たちの資質・能力を育む授業を充実させましょう。そして、『学びの実感』を積み重ねる授業の質的向上を目指しましょう。

【第1部】 全国学力・学習状況調査の分析から

平成29年度から31年度までの調査問題や調査結果の分析と、令和2年度の調査問題の分析から、授業改善の方向性の一つとして「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指す授業を、さらに充実させることが大切であると分かりました。

1 国語

国語科においては、以下の設問に課題が見られました。これらの設問は、学習指導要領（平成29年3月告示）においては、

〔思考力、判断力、表現力等〕B 書くこと ウに関する指導事項
（「考えの形成」の学習過程）

につながると考えられます。

【静岡県の小学校】

問 題	出題の趣旨	正答率
H29B 2三	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く。	33.6%
H30B 2二	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。	14.5%
H30B 1三	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。	35.7%
H31 1三	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。	31.1%

【静岡県の中学校】

問 題	出題の趣旨	正答率
H29B 1三	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く。	44.5%
H30B 1三	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く。	12.3%

これらの結果から、「書くこと」において目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にしたり、相手に伝わるように内容を整理したりすることに課題があると考えられます。

「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けて、根拠や理由を明確にして自分の問いや考えを持ち、既存の資質・能力や学習に関する経験などを働かせながら、考えを深める姿が見られる授業づくりをこれからも行っていきましょう。

第2部「国語」では本年度の調査問題を基に、根拠や理由を明確にして自分の考えを形成する授業づくりについて具体的に示しています。

2 算数・数学

算数科・数学科では、記述式の問題に課題が見られました。記述式では以下のよう
に、小・中学校共に3種類の問題があります。

<記述式の問題の種類>

	小学校	中学校
①	「事実」を記述する問題	見いだした事柄や事実を説明する問題
②	「方法」を記述する問題	事柄を調べる方法や手順を説明する問題
③	「理由」を記述する問題	事柄が成り立つ理由を説明する問題

算数科・数学科においては、以下の設問に課題が見られました。

（出題の趣旨にある①～③は、上記「記述式の問題の種類」）

【静岡県の小学校】

問 題	出題の趣旨	正答率
H29B 5(2)	③基準量、比較量、割合の関係を活用して判断した理由を表現すること。	11.9%
H30B 3(1)	①複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現すること。	19.5%

【静岡県の中学校】

問 題	出題の趣旨	正答率
H29B 1(2)	①事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明すること。	13.9%
H30B 3(3)	②数学的な結果を事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。	13.5%
H30B 5(2)	③事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明すること。	11.3%

これらの結果から、子供たちが既習事項を使って、数学的な表現を用いながら、自分の考えを記述することについて課題があると考えられます。

「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けて、事象を論理的に考察したり、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したりすることを重視した授業づくりをこれからも行っていきましょう。

第2部「算数・数学」では、本年度の調査問題を通して、自分の考えを記述する場面をより充実させることについて伝えています。

また、その際に具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどと関連付けて説明したり記述したりすることの大切さを示しています。

【第2部】 授業改善に向けて「算数・数学」

「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けて、事象を論理的に考察したり、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したりすることを重視した授業づくりをこれからも行っていきましょう。

小学校の調査問題から（問題 2）（2） ※「事実」を記述する問題）

【出題の趣旨】解説資料 P28

底面が正方形の四角柱の構成要素や性質を基に、示された乗法の式の意味を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。



図3は、図2の直方体の側面にはる紙です。



このときの、長方形の横の長さを求めましょう。

$5 \times 4 = 20$ だから、答えは 20cm です。



では、 5×4 の式の 5 と 4 は、図形の中でそれぞれ何を表している数なのかを書きましょう。

（例）この図形は底面が正方形の四角柱です。5 は底面の 1 辺の長さが 5 cm であることを表し、4 は底面の 1 辺の長さが 4 つ分であることを表しています。



底面の正方形の周りの長さと図3の横の長さは同じだね。円柱でも同じように考えられるかな。



授業では

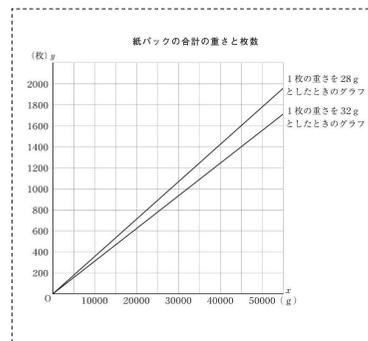
事実を説明する場面を意図的に設定することが必要です。その際に、数の意味について問い返したり、問題場面と関連付けて記述を促す発問をしたりすることが大切です。

子供たちが数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表したり、式と図を関連付けて思考過程を表現したりする姿を見取りましょう。

中学校の調査問題から（問題 6）（2） ※事柄を調べる方法や手順を説明する問題）

【出題の趣旨】解説資料 P24

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。



45000 g のときの紙パックの枚数の違いは、どのように求めることができますか。

グラフを見ればわかるよ。



y の値の差は 200 かな。



グラフを使って、どのように求めましたか？学習した用語を使って、求める手順を書いてみましょう。

（例）1 枚の重さを 28 g としたときのグラフと 1 枚の重さを 32 g としたときのグラフについて、x の値が 45000 のときの y の値の差を求めます。



求め方が書いてあると、式がわかれば答えを求めることができるね。



授業では

答えを求めることだけでなく、方法や手順を記述する場面を設定することが必要です。その際に、既習事項を活用して、事象を論理的に考察し表現することが大切です。さらに、その表現を、協働・対話を通して数学的な表現で簡潔・明瞭・的確に練り上げていく場面があると、資質・能力の育成につながります。

小・中学校共に、どの領域においても、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどと関連付けて説明したり記述したりする場を意図的に設定することで、論理的に考え、簡潔・明瞭・的確に表現する資質・能力を育成していきましょう。

さらに、子供が資質・能力を発揮している姿を見取り、価値付けていくことが大切です。